

大学構内における筑波紫とフューチャーブルーの分布

上野 李佳子 (地球科学専攻)

1. 背景・目的

筑波大学は、2010年より筑波大学らしさを「IMAGINE THE FUTURE.」と表現し、筑波大学のセカンドカラーを「フューチャーブルー」とした。そのため、筑波大学構内には筑波大学を代表する色として「筑波紫」と「フューチャーブルー」の2色が存在している。本稿では、これらの色の分布的特性を比較することにより、筑波大学のブランド化活動がどのように行われているのかを考察する。

2. 研究方法

対象地域は、大学ブランド化活動が活発に行われている筑波大学構内である。研究方法としては、「筑波紫」及び「フューチャーブルー」に着色されたものを対象とし、そのウェイポイントをGPSによって記録する。また対象物の種類・大きさ・地面からの高さを記録し、ArcGISによって地図化を行った。

3. 結果

ウェイポイントを取得した計129箇所のうち、筑波紫は63箇所、フューチャーブルーは66箇所で使用されていた(第1図)。筑波紫は、医学エリアや大学会館エリアで多く使用されている。一方、フューチャーブルーは、大学会館エリアから中地区へとつながるペDESTリアンデッキ周辺に分布が集中している。

対象物の特徴として、筑波紫は、案内板を中心に、文字または校章などあらゆる種類の対象物に使用されており、大きさや使用される高さも様々であった。フューチャーブルーは自動販売機、横断幕、旗、看板のみの使用であり、その機能も「IMAGINE THE FUTURE」「筑波大学開学40周年+」の宣伝のみと限定的であった。

4. 考察

以上により、校章など筑波大学を代表するものには筑波紫が使用されており、フューチャーブルーは限られた対象物にしか使用されていないことから、現時点で行われている筑波大学のブランド化活動は大学関係者を対象にしていると考えられる。

そのため、今後もフューチャーブルーを用いて大学のブランド化活動を行うのならば、筑波紫とフューチャーブルーの使い分けに留意し、フューチャーブルーをどのような種類のものに使用するかということを考えていく必要があるといえる。



第1図 筑波紫とフューチャーブルーの分布と対象物の種類